

# チャイムのない学校

--五日市南中学校区内--



第45号平成23年4月22日

広島市立五日市南中学校

〒731-5135 佐伯区海老園 4-2-21

TEL082-923-5601 FAX082-923-9828

## 校長室だより

割り切ることはいけない。忘れてはいけない。  
割り切ってはいけない事だと思います。

ボランティアができる生徒

スクールカラーがスカイブルーをめざして  
～4月6日(火)入学式30分前、前期始業式式辞にて～

「おはようございます。東日本大震災(マグニチュード9)で起きた未曾有の現実(いまだ見たことのない現実)の中で、東北高校が宮城県の代表として甲子園に出場をしました。

1回戦で大敗、負けましたが、  
とても印象的な言葉を  
残しました。

東北高校の4番バッターで  
エースピッチャーが  
話をしていたことです。  
震災が起こる2時間前に、  
NHKが甲子園出場校への  
インタビューを東北高校で  
行っていました。

その時に彼が話をしていた言葉は  
『全国制覇』

でした。よく努力もし、その言葉に

ふさわしい日常生活を送っていたと思います。そのインタビュー2時間後大震災が起こり、その翌日から、すべての練習を止め、被災した方のボランティア活動に明け暮れました。

このように、どうして心が動いたのだろうか。自分や自分たちが行ってきた努力を置き、一斉にボランティア活動に入れるだろうか。それだけの未曾有の現実であった。それだけ打ち込んできた野球であった。だからだろうか。

被災者の方にエールを贈られて、甲子園に向けて出発をしても、本

当に自分たちは甲子園に向かっていいのだろうかと思った。まだ、割り切れなかったと言います。



甲子園に来て、甲子園に出場できなかった  
予選敗退した学校と練習試合を行いました。  
大敗しました。

監督に、『おまえたちが野球をして  
甲子園から被災地の方々に感動を  
与えることはできない。できるとすれば、  
全力疾走だ。』と。

甲子園で試合が始まり、彼らは、ほんとによく走った。見事だった。負けたけど、被災地の方々に元気を与えた。彼は、甲子園で試合が始まる直前にインタビューを受けていた。

『割り切って試合に入ることはできない。割り切ることはできない。被災地のことを忘れて野球をすることはできない。忘れてはいけない。割り切つてはいけないと思います。』

甲子園で敗れた後のインタビューで『悔いがないと言ったら嘘になる。悔しい気持ちはある。夏に向けて甲子園は頑張る。』

でも、今することは被災地に戻ってボランティア活動をするということです。』

とっていました。

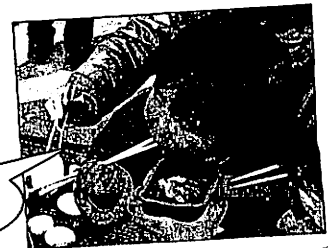
ボランティアの語源は、ギリシャ語でボランタスと言います。自由意志という意味です。ここまで意志を育てていることは素晴らしいと思います。この一年間をかけて2, 3年生みんなは、未曾有の現実からも、目の前の現実からもしっかり学び、しっかり生き、学ぶことと生きることの2つが1つになる生徒（学生）に一段と成長をしていってください。あなたがたには、彼の持っている良さがあると思います。以上。」

4月12日（火）学校朝会にて、前期役員認証式

「おはようございます。学級役員144名の生徒のみなさんはクラスの仲間から承認されて今ここにいます。自分に出番が与えられたことに感謝し一人ひとり自分の役割を自覚し、『役』を通して成長していってください。様々な場面においてのアイデアを期待しています。『役は人を育てる』クラスのみんと共に、先生と共に汗を流し、多くの出番を開拓して、拍手のある承認のある関係をつくっていってください。『役は人を育てる』期待しています。

3年1組	学級委員	久門	大志	古田	理沙
	生活委員	大熊	誠司	山本	真子
	保健委員	寺戸	慎	天野	萌香
	図書委員	岡	奎志	松岡	陽花
		.....	.....	.....	.....

以上18学級 144名の生徒会役員を承認します。



勢いよく舞い上がる炎に、  
歓声が上がりました。

